

京田辺市複合型公共施設 整備基本構想検討懇話会

<第2回>

複合型公共施設のあり方

複合型公共施設整備の基本的な方向性

複合型公共施設は、「誰でもいつでも気軽に文化に触れ、活動できる環境づくり」の中心的役割を担います。

京田辺市の文化ネットワークの中心拠点

- いつでも誰でも文化を楽しむことができる「“市民”と“文化”をつなぐ施設」
- 日常的に文化を楽しむことができる「“暮らし”と“文化”をつなぐ施設」
- 文化でまちを彩る「“まちづくり”と連動した施設」

(例えば)

- ・買い物に行くのと同じように
- ・時間が空いたのでふらっと

日常的に文化を楽しめる

“市民”と“文化”
をつなぐ

文化ネットワークの
中心拠点

“暮らし”と“文化”
をつなぐ

“まちづくり”
と連動する

(例えば)
・子育て中の人も
・勤め帰りにも

いつでも誰でも
文化を楽しめる

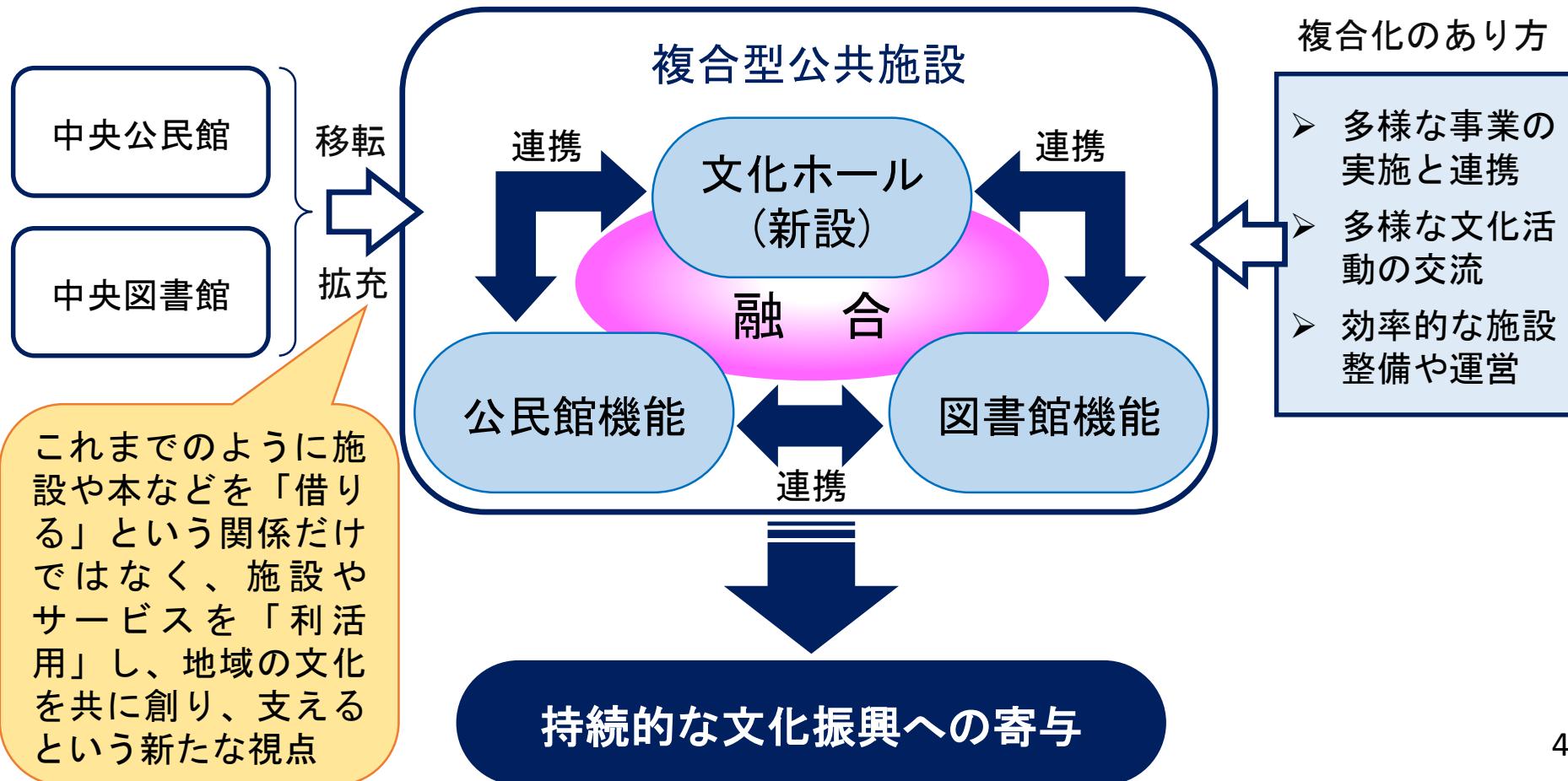
(例えば)
・そこに行けば何かがある
・市民の文化活動の拠点として

文化でまちを彩る

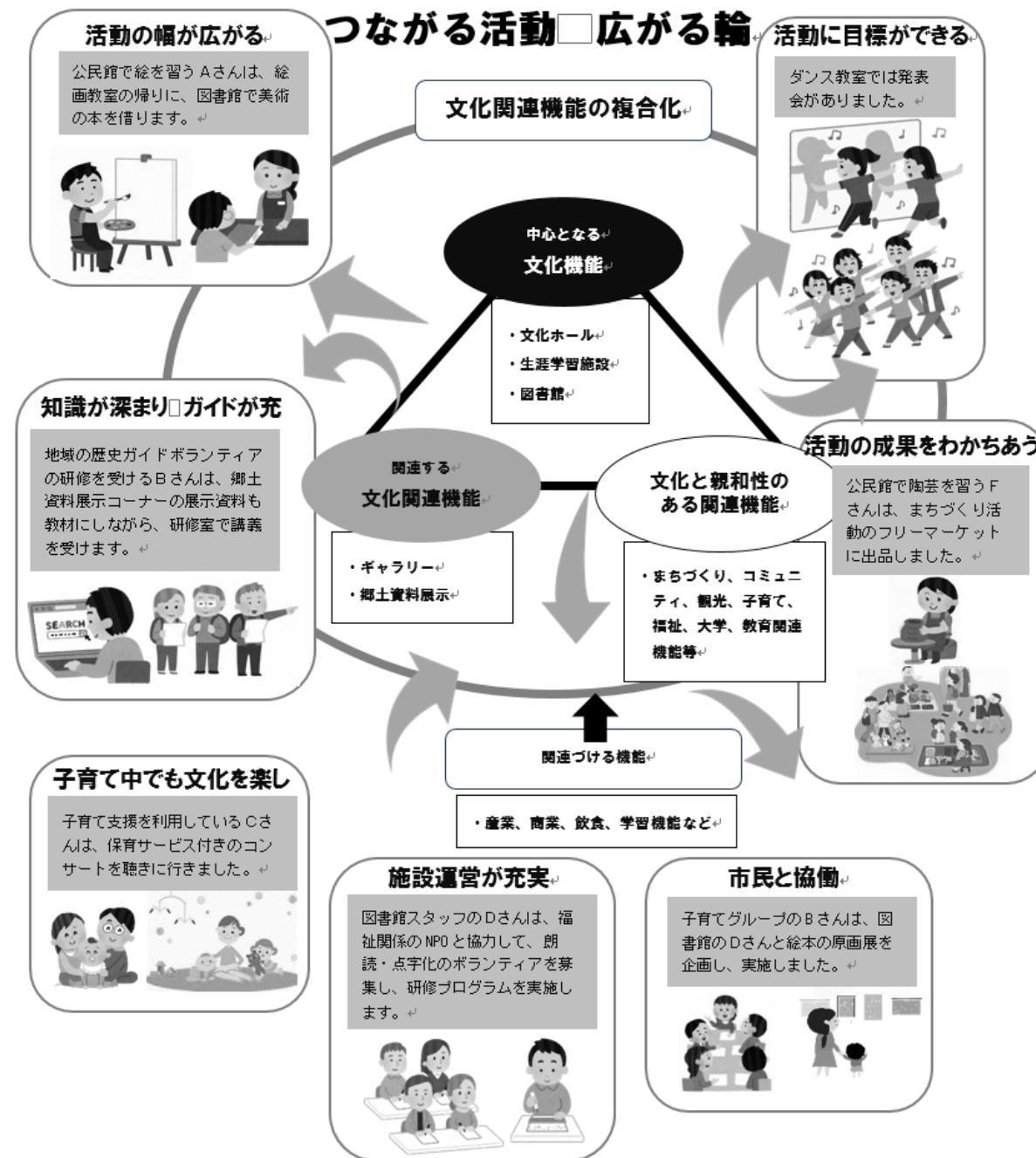
施設の複合化及び連携の考え方

個々の機能の充実とともに、各機能の連携や融合により、市民の多様な文化ニーズに対応し、新たな文化の創造に資する施設として整備し、持続的な文化振興を図ります。

- 中央公民館と中央図書館の移転・再整備に伴う機能の充実
- 事業の連携や多様な文化活動の交流など、複合化のメリットを活かした施設運営
- 複合化による有効利用(諸室の共有化)と整備・運営に係るコスト削減

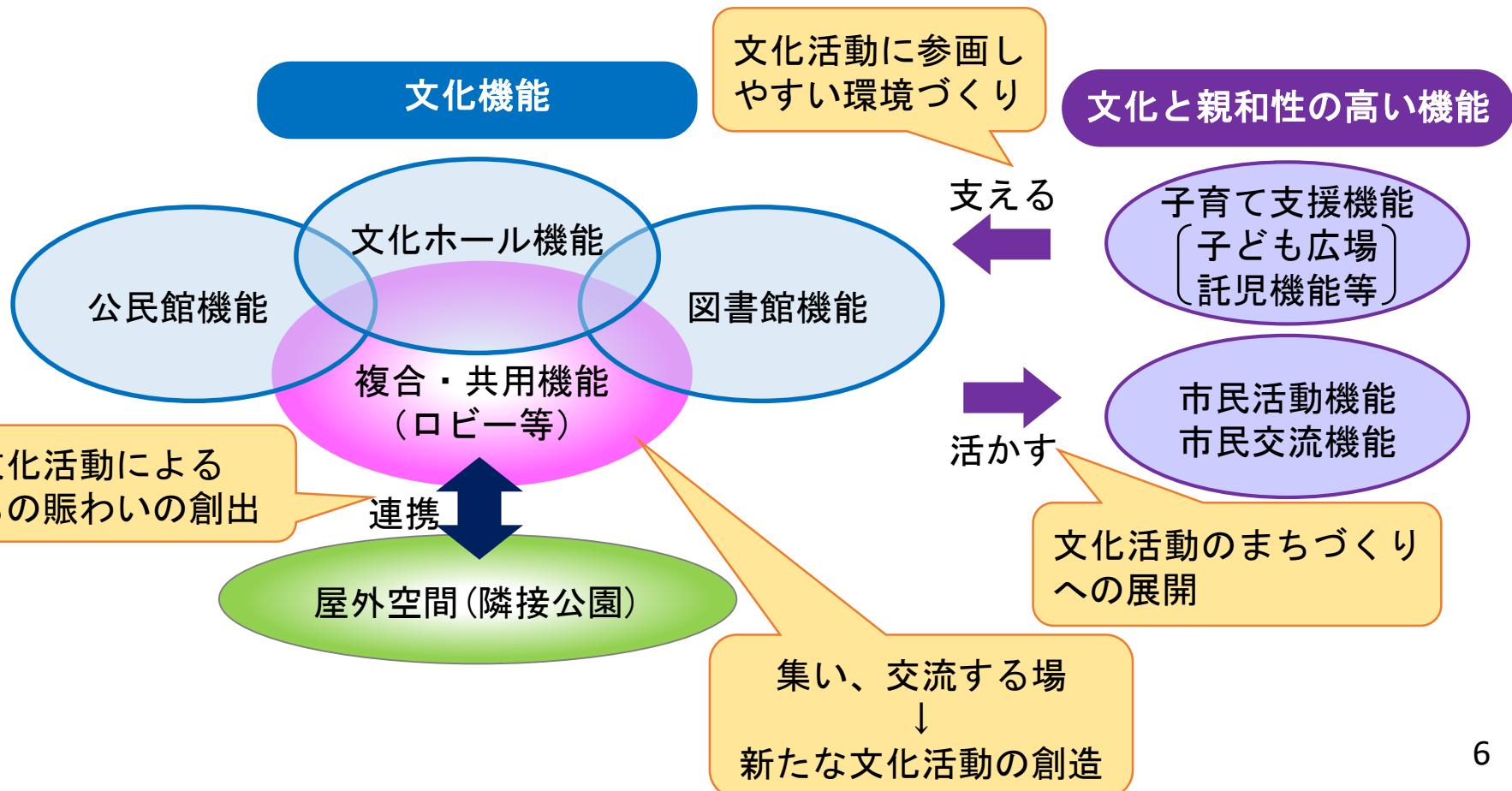


複合型公共施設が生み出す 新しい文化のかたち



複合型公共施設の構成

- 子育て支援機能の併設による「誰もが文化活動に参画しやすい環境づくり」
- 市民活動機能や市民交流機能の併設による「文化活動のまちづくりへの展開」
- 施設を訪れた市民がいつでも、集い、交流することで新たな文化活動が創造される「“ひろば”として機能する共用空間(ロビー等)」
- 屋外空間(隣接公園)との一体的なイベント等による「まちの賑わいの創出」



複合・共用機能としてのロビーのイメージ

“憩いの場”としてのサードプレイスから
“つながり”により文化活動が創造される
フォースプレイスとしての「ひろば」

【参考】

- ファーストプレイス：自宅・家庭
- セカンドプレイス：職場・学校
- サードプレイス：居心地の良い第3の場所（憩いの場）
- フォースプレイス：「つながり」を付加した場



ロビーコンサートによる音楽とのふれあい



クラフト作品の販売やワークショップへの参画



ロビーでの出会いと交流

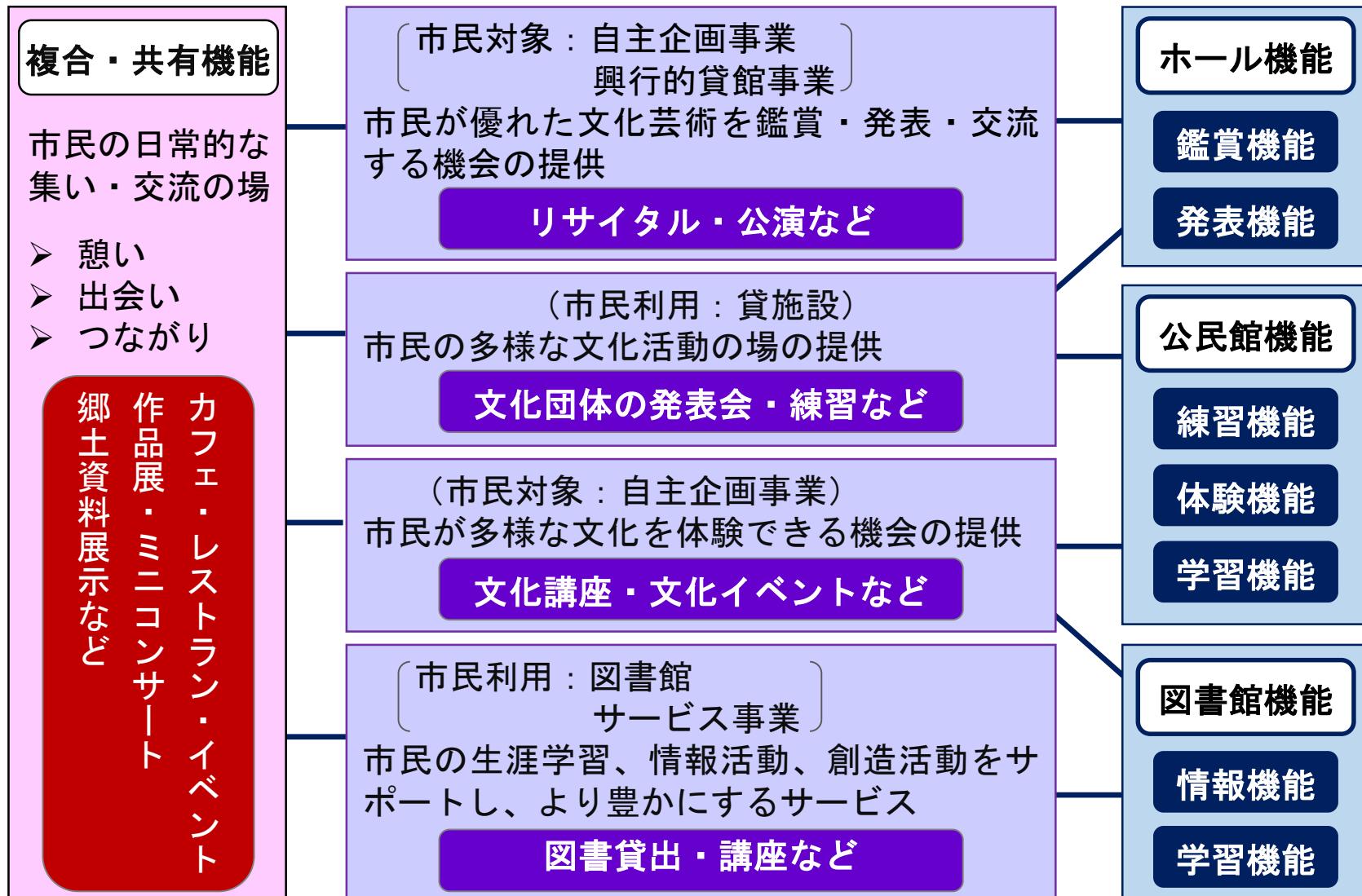


屋外でのイベントとの連携

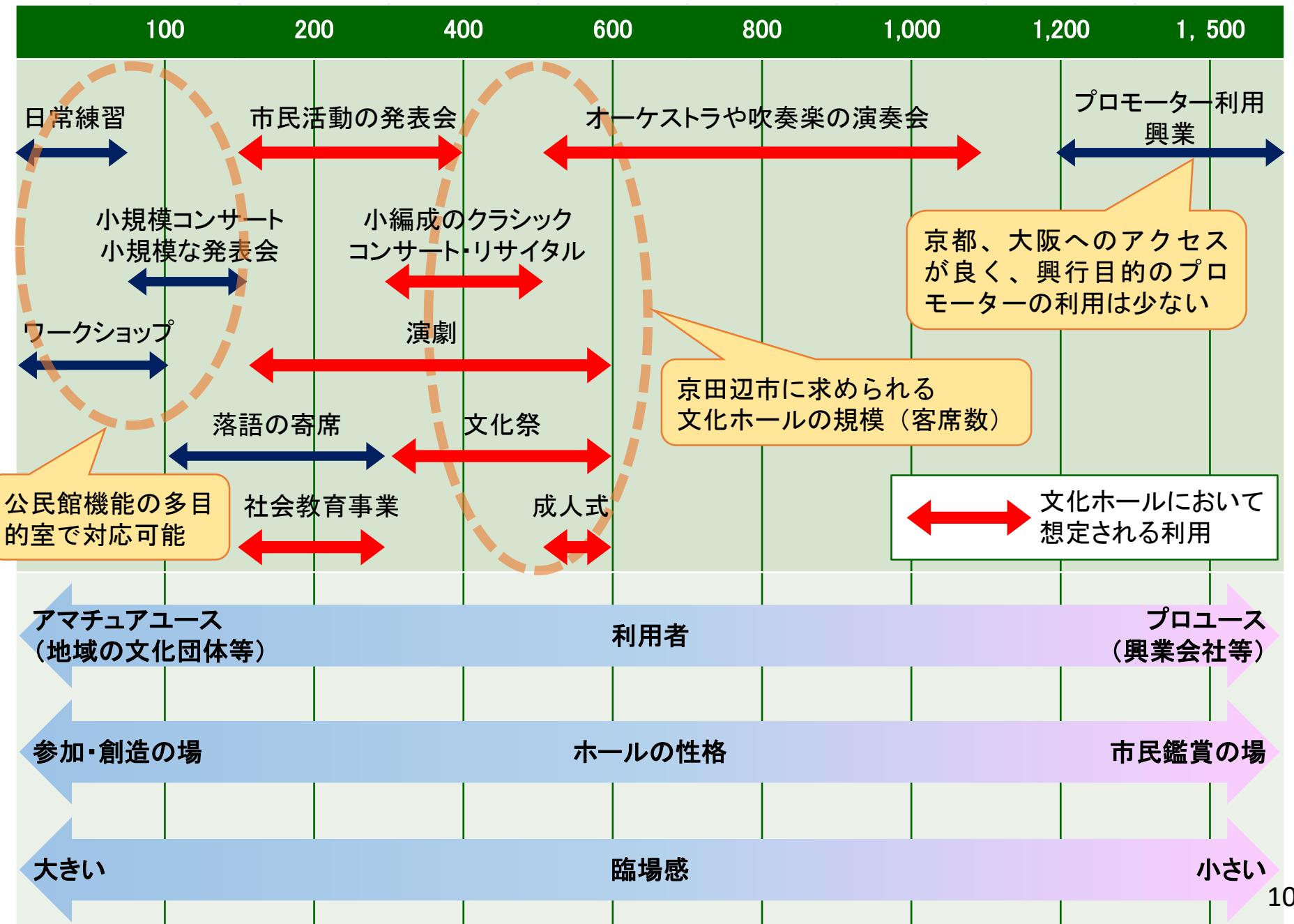
複合型公共施設の整備イメージ

事業と施設機能

ロビーなどの共用機能は、個々の文化機能の融合や連携を図る場として位置づけるとともに、サードプレイス(居場所)やフォースプレイス(出会い・つながり)として機能し、訪れた市民が文化情報・文化活動に接する場とします。



文化ホールの規模（客席数）



多目的な利用に対応する文化ホール

発表会やコンサートだけでなく、芸術作品の展示やダンス等の多目的な利用への対応

発表会やコンサート時



スターツおおたかの森ホール（千葉県流山市）
客席数506席
1F 移動観覧席280席、可動席58席、車椅子席4席
2F 固定席156席、多目的室（親子席）4席×2

1Fの移動観覧席及び可動席を
収納し、平土間となった状況



芸術作品の展示やダンス等の利用時

舞台の広さや設備

- リサイタルや室内楽、管弦楽、吹奏楽、合唱、ダンス、バレエ、演劇等、多目的な利用への対応
- 多目的な利用に対応した舞台照明や音響設備、可変式の反響板（音響反射板）の設置
- 楽屋の設置と表（客席）と裏（演者）の動線の分離
- 利用しやすい機材の搬出入スペースや経路の確保
- 車椅子席や乳幼児連れで鑑賞可能な客席の設置



親子席のイメージ
客席後方に壁で仕切られた空間

多様な文化活動に対応する公民館機能

- 市民の文化活動拠点として、美術・工芸、音楽、ダンス、書道・茶道・生け花、料理など多様な市民の文化活動へ対応
- 間仕切りにより規模の変更が可能な会議室（研修室・集会室）
- 会議室（研修室・集会室）への視聴覚資機材等の設備の設置
- 音楽やダンス、バレエ等の練習やリハーサル等とともに、小規模なコンサートや発表会等、多様な利用へ対応する多目的室の設置

多目的室で想定される利用



リハーサル・練習



ダンスレッスン



小規模なコンサート・発表会

図書館における多様なニーズへの対応

- 従来の閲覧スペースに加え、くつろいで読書が可能なスペースや子どもに読み聞かせが行える親子向け読書スペースなど多様な閲覧スペースの設置
- 自習やグループ学習、コワーキングへの対応
- 職員の動線に配慮した閉架書庫と搬入・荷捌きスペース



カフェと一体となった読書スペース（ロビー）



親子向けの読書スペース



屋外の閲覧スペース
グループ学習が可能な閲覧スペース



自習スペース

施設運営

持続的な文化振興のため、文化を「地産地消」する体制や仕組みを検討します。

施設運営の視点	事業内容
①地域の文化振興への寄与	<ul style="list-style-type: none">➤ 文化活動の成果を活かして、文化事業を企画し、実施したいと考える人々や団体の事業実現の支援。➤ アウトリーチ活動をしたい個人や団体と芸術文化活動の出張サービスを求める団体や施設とのマッチング。
②文化活動団体等と連携した文化振興	<ul style="list-style-type: none">➤ 地域の文化活動団体によるコンサート等のイベントの開催。（チケットの販売の可否についても要検討）➤ 文化活動の成果を活かした教室や講座の開催。（受講料の徴収の可否についても要検討）
③文化を通じた賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none">➤ 施設の稼働率の向上のため、貸館だけではなく、コンサート等の主催事業の積極的な開催。➤ 隣接した公園（屋外空間）でのマルシェ等のイベントと文化活動の融合。